

令和5年6月 教育委員会定例会会議録

1 開会の日時

令和5年6月22日（木） 午前9時30分

2 出席委員

新 倉	聡	教育長
荒 川	由美子	委員（教育長職務代理者）
澤 田	真 弓	委員
川 邊	幹 男	委員
元 木	誠	委員

3 出席説明員

教育総務部長	古 谷 久 乃
教育総務部総務課長	加 藤 博 昭
教育総務部教育政策課長	飯 田 達 也
教育総務部生涯学習課長	柿 原 美 奈
教育総務部教職員課長	筒 井 宣 行
教育総務部学校管理課長	二 見 裕
学校教育部長	川 上 誠
学校教育部教育指導課長	鈴 木 史 洋
学校教育部支援教育課長	小 谷 亜 弓
学校教育部保健体育課長	小 田 耕 生
学校教育部学校食育課長	高 橋 大 歩
学校教育部教育情報担当課長	矢 本 智 子
中央図書館長	山 田 智 子
博物館運営課長	北 山 剛 子
教育研究所長	梅 谷 尚 子

4 傍聴人 3名

5 議題及び議事の概要

- 教育長 開会を宣言
- 教育長 本日の会議録署名人に川邊委員を指名した。
  
- 教育長報告

(新倉教育長)

それでは、5月定例会から本日までの間の所管事項について報告をさせていただきます。

お手元の教育長報告資料等をご覧くださいと思います。

6月7日から6月定例議会が開催されております。明日までの予定であります。補正予算等につきましてご審議をいただいているところです。

教育委員会関係の会議としましては、5月12日に神奈川県都市教育長協議会が三浦市で開催されました。また、5月17日から19日にわたりまして、全国都市教育長協議会が北海道帯広市で開かれましたので、これらに参加をさせていただいております。

裏面になりますけれども、5月28日に教育フォーラム2023を開催いたしました。詳細については本日報告事項として上げさせていただきます。

学校関係の行事といたしましては、5月13日に逸見小学校で150周年の式典が開催されました。本年度150周年を迎える学校が数校これから出てくる形になっておりますが、いわゆる学校行事として扱わせていただいております。

それから、図書館・博物館の展示等ですけれども、3月から6月18日にわたりまして、「牧野富太郎がみつめた植物」という形で展示をさせていただきましたところ、NHKテレビ等の影響もあるのでしょうか、この期間中に9,500人を超える方が観覧をしていただいている状況であります。横須賀にある資源をぜひ市民の皆さんに見ていただくためには、大変有意義だったのかなというふうに思っているところです。

以上、私からの報告とさせていただきます。

(質問なし)

- 教育長 報告事項を聴取することを宣言

報告事項(1)『「教育フォーラム2023」の開催報告について』

(教育政策課長)

教育政策課から、教育フォーラムの開催報告をさせていただきます。

今年度の教育フォーラムにつきましては、外国につながるのある子どもたちの支援につきまして、学校、家庭、地域が一緒に考え、意見を交換するという趣旨により開催をさせていただきました。

日時と場所につきましては、資料に記載のとおりでございます。

当日は、中学生、高校生、大学生、保護者、教員、公募市民などの参加者のほか、教育委員の皆様や市議会議員、教育委員会事務局の職員などの見学をいただいた方を含め、総勢90人にお集まりをいただきました。

開催内容につきましては、第1部をラウンドテーブル方式、第2部をワールドカフェ方式による意見交換会としております。

フォーラム全体の進行・まとめ役であるファシリテーターは、関東学院大学法学部教授の牧瀬稔先生にお願いをしております。

第1部につきましては、冒頭に支援教育課から外国につながるのある子どもたちについて、横須賀市の現状を説明し、4月に開設した日本語支援ステーションを動画で紹介をしております。

その後のラウンドテーブルでは、外国につながるのある当事者や指導・支援経験のある4人の方からご発言をいただきました。なお、各討論者の発言内容につきましては、資料2ページの上段、討論者の主な発言に記載のとおりでございます。

続く第2部のワールドカフェでございますが、様々な立場や世代の参加者が6人ずつで10のテーブルに分かれ、共通のテーマについて自由に意見交換を行い、ほかのテーブルとメンバー交換しながら話し合いをして、発展をしていきました。

ファシリテーターである牧瀬先生のゼミの学生さんたちにつきましては、各テーブルで進行役となるテーブルホストを務めていただき、外国につながるのある子どもたちについて、テーブルごとに多様な議論を交わされていきました。

各テーブルの総括の一言につきましては、資料2ページ下段、総括1、テーブルホスト担当の大学生による「まとめの言葉」に記載のとおりでございますが、いずれも参加者がテーマについて深く考えた結果、提示された内容だったと捉えてございます。

また、3ページ上段の総括2、ファシリテーターによるワールドカフェ全体の総括として、共有、共感、共創という3つの「共」をキーワードに、牧瀬先生からまとめを行っていただきました。

なお、フォーラム終了後、参加者から感想やご意見をいただき、いただいた感想の内容を5、来場者の感想・意見等にまとめています。

また、この開催報告につきましては、横須賀市ホームページにも掲載してございます。

今回の教育フォーラムでの様々な視点を横須賀市の今後の取組に活かしてまいりたいと思います。また、教育委員の皆様におかれましては、当日のご出席ありがとうございました。

(新倉教育長)

ただいまの報告についてご質問等あればと思いましたが、各委員の皆さんにはご参加いただいていた経緯がございますので、もしよろしければ感想等ございましたら、一言ずつお願いできればと思っておりますが、いかがでしょうか。

(澤田委員)

様々な立場の方々が1つのテーマに沿って話し合うこの「教育フォーラム」は、自分のこととして横須賀をよりよくしていこうと考える意識を醸成していく大変よい取組であると思います。今回のテーマは、「日本語支援ステーション」の4月開設もあり、時宜を得た設定だったと思います。

様々な見方があり、気づきがありました。外国につながるのある子どもたちには、個々の事情、それぞれの背景があり、その支援は多様であること支援や出会いをつないでいくことの大切さ、私たちの役割として、その支援の選択肢、リソースを増やしていくことが大事だと思いました。

(元木委員)

今回の教育フォーラムは、外国につながるのある子どもたちの支援についてということで、第1部にありましたラウンドテーブル形式において一番印象に残っていることは、西之原様の発言の2つ目ですかね、資料の2ページ目の日本人でも外国人でもない中間層のため、周りとは違う自分を好きになることが大切であるといったご発言ですが、まさに外国につながるのある子どもたちのアイデンティティを大事にすることが大切なのだなと思った、気づいたというところでは。

日本の文化や慣習を知ってもらうことは大切ですが、それを押しつけることなく、外国のつながりのある子どもたちが楽しく明るく学んでもらえる環境作りと、また、お話の中で、子どもたちが積極的に外国につながるのある子どもたちに接しているというところで、そういった子どもたち同士の自由なコミュニケーションというところもすごく大事であり、そういったことが積極的に行われるような学びだったりとか、支援ができればなと思ったというところでは。

(荒川委員)

私も、まず第1部のほうから、その討論に参加された4人の方のご意見がとても印象深く、本当にどの方のご意見も心に残る言葉がたくさんありました。やはり、その中で、最後の平塚氏がおっしゃった、植物と同じで、育ってきた土壌から抜かれ、根も葉も傷ついている状態と同じというあたりで、私たちが今後そういう児童、それから保護者の方もそうですよね、接するときに本当に大事なことに気づかされました。とてもいいお話がたくさん聞けたと思います。

それから、第2部のワールドカフェのほうでも、各テーブルで中学生から大人の方まで、いろいろな方がいろいろな意見をお話をなさっている中では、やはりご自身が体験した外国に関わる方々との触れ合いのことなど、自由にお話しされていて、ほかの方々がうなずいたり共感したりというような、そういう場面がたくさん見られました。

ですから、私もそこでそういう意見を聞かせていただいてよかったなというふうに強く思いました。ありがとうございました。

(川邊委員)

意見ではないのですが、当日頂いた資料の中で、日本語指導が必要な児童生徒の言語別の状況という項目がありました。その中に、英語、フィリピーノ語、次に日本語が入っているのが、ちょっとこの日本語指導が必要な児童生徒の中に日本語という項目が入っているのが私、分かっていなかったのもので、ここでご説明いただければと思います。

(支援教育課長)

外国につながりのあるお子さんの場合、どこが母語にあるかということが大切ですが、母語だけでなく、環境がどうだったかということも大切で、母語が日本語だったけれども、外国で育った環境だったり、保護者の方のどちらかが外国の言葉を使われていたりということで、日本語が十分に習得できていないまま日本に来た方もいらっしゃいます。そういう意味で、日本語というところがそこに書かれているので、母語が何かという表記です。ただ、十分な日本語が自分の母語として習得ができていないという状況なので、支援が必要だということを書かせていただいております。

(新倉教育長)

多分、今のお話というのが非常にあるのは、家庭でしゃべっている言葉と、それから生活で使っている言葉、つまり対外的な人との、社会の中で使っている言葉とは違っている。だから、ある意味日本の私たちはバイリンガルを目指そうと

思っても、家庭の中でも日本語、日常生活でも日本語なので、その環境に行かないと他言語を使いこなすところまでいかないということなのかなというふうに思っているのですね。

その意味で、今回使った日本語支援ステーションというのは、日本の教育はどうしても日本語で行っているので、母国語以外のところでそれになじんでもらわないと、学校生活がいかないだろう。だから、何というのですかね、日本語学校をやっているわけではなくて、日本の教育になじむための話をしている。ですから、英語表記させていただいているときに、ジャパニーズ・アズ・セカンド・ランゲージという、日本語は2番目の言葉だよということを教えていきたいなというふうに思っているところだと思っています。

先ほど荒川先生もおっしゃっていましたが、西之原さんがおっしゃっているのは、ご自分のやはり国籍等を考えると、ペルーに自分はあって、子どもたちが日本でずっと生活をしていくと、自分の母語であったペルー語を子どもたちが理解できないのはいけないから、だから家庭ではペルー語をしゃべらせたいのだというようなお話があったのと同じように、全てを日本語にすればいいということではないということ、ぜひ大事にしていかなくてはいけないのかなというのは、これは私もずっと思っていたところなので、どちらかという、日本語を十分習得させることだけが目的になっていくのではなくて、生活語として、あるいはそれを理解できる場所に持っていくということが目的なのではないかなと思っています。将来的に目的をはき違えた形になってしまうことが、ないようにしていかなくてはいけないかなというのは、私も思ったところでした。ぜひその辺は皆さんでも気をつけていくべきなのかな。逆に言うと、こういう言い方は大変悪いのですけれども、外国人に見えるお子さんたちが、日本語しかしゃべれない方もいるのだということもきちんと理解をしていかなくてはいけないということが、これから出てくると思うので、やはり母語をどう大事にさせるかということもどこか念頭に置かなければいけないのかなと思いますので、この辺はなかなか難しいのかなというふうに思っています。すみません、私の感想まで述べてしまって申し訳ないですが。

他に、ぜひ何かここは改善したらいいとかと、ここも気をつけたらというのがもしあれば、お願いをさせていただきたいのですが。

(澤田委員)

今、教育長がおっしゃったこと、まさにそのとおりだと思います。私は現在、日本語支援・指導が必要な子どもたちの研究等に関わっているのですが、その中でもよく話題になることは、母語の大切さということ、これはアイデンティティにも関わることなのです。私たちは、その子たちを「日本人にする」わけで

はないということなのです。そこを踏まえながら、指導・支援を行っていかねければいけないと思います。

(新倉教育長)

澤田先生のところが一番詳しいと思うのですが、学校教育の中で日本語がしゃべれない、だからしゃべれないということだけを大前提にしてしまうと、その子が発達障害を持っているのではないかと同じように、支援教育の範疇に入れてしまい、支援級に入れればいいということだけは絶対避けなければいけないことだと思っているので、そういった見方は絶対にしないようにということは、我々肝に銘じなければいけないし、逆に、本来の発達障害があったのかどうかは、別にもう少し詳しくきちんと診た上で、その母語によるきちんとした支援ということを考えていかないと、なぜか、ただ差別ではないのだけれども、違うからということで区分というのかな、分離をさせてしまうということだけは、絶対に行ってはいけないのかなと思っていますので、この辺は初期集中教育と、それから日本語指導に携わっている先生方にぜひ改めて、喚起と言ってはいけないのですけれども、もう当然分かっているらっしゃると思うので、ぜひ念押しという言い方はいけないかな、上から目線で申し訳ないのですけれども、気をつけていただくように、ミーティングの際に進めていただければなと思っています。

(理事者報告なし)

(委員質問なし)

## 6 閉会及び散会の時刻

令和5年6月22日(木) 午前9時48分

横須賀市教育委員会

教育長 新 倉 聡